

◎ : よい点    ◇ : 期待・継続の要望    ■ : 改善点・助言

## 1 令和 4 年度事業についての意見・感想

|      |  |
|------|--|
| 経営全般 | <p>◎ 教育センター様におかれましては、現場からの様々なニーズを取り上げ、大変丁寧な対応をされているという印象を受けました。取り組みの周知の方法等に課題も見受けられますが、すべての課題について、より充実する方向に組みが行われてきていると考えております。</p> <p>◎ 様々な課題に対し、充実した取り組みがなされ素晴らしいと思います。ご苦労様でした。</p> <p>◎ センターのホームページが年々充実しており、特に ICT 関連（リンク集を含め）はタイムリーです。多くの教職員に周知していくのが管理職の役目と考えます。（一部、データ量が多いのか、市教委のセキュリティの問題か、学校の PC の問題か分かりませんが、開くまでかなりの時間を要するものや開けないものがあるのが残念でしたが・・・）</p> <p>◎ ICT の活用に関して、ホームページのコンテンツが充実しており、また頻繁に更新されていることは高く評価できる。また、ホームページについて Twitter や学校の所属メールで PR の努力がなされていることも評価できる。今後も更なる充実を期待する。なお、他県でも同様の取組があるとすれば、相互に連携してリンクを張ることにより、参考にできるコンテンツが飛躍的に増加するのではないかと。</p> <p>◇ 県教育センターHPに掲載されている ICT を活用した好事例等が各学校で活用されるよう、引き続き、学校現場へ周知・発信をするようお願いいたします。</p> <p>■ ホームページの充実に伴い、サイト内検索ができるようになるとありがたい。</p> <p>■ センターの HP が年々充実してきており、「センターHPで、興味・関心に応じて研修してみよう」というテーマで、1時間程度の時間を確保すれば、個別最適な研修ができ、さらにその後、教員各々の関心・能力に応じて学びが広がり深まりそうである。管理職が、教員の自主研修につながるようなセンターの取組みを、所属職員に紹介・推奨したり、各教職員が主体的に多様な研修や学びを深めるきっかけづくりとしたりできるよう周知をさらに進める必要がある。</p> |
| 研修事業 | <p>◎ 学校にとって出前サポートは大変ありがたいです。件数が増加していることにも表れています。引き続き、学校の実態に寄り添ったサポートをお願いします。</p> <p>◎ 研修の目的・内容に応じて、集合型・オンライン・オンデマンドと適切に研修形式を区分しており、参加者からも好評を得ている。オンライン・オンデマンドの場合は、管理職としても所属職員に声がけしやすい。著名な方の講義型の研修は、今後ともそのような形が望ましい。</p> <p>◎ 夏休みの初任研のオンデマンド形式は配慮していただいたと評価している。</p> <p>◎ 「初任研にメンタルヘルス内容を取り入れて欲しい」ということを、昨年お願いしましたが、早速取り入れていただき感謝します。</p> <p>◎ 各市町村で、端末のメーカーや OS、導入しているソフト等が異なるのに、すべてに対応できるように ICT 研修を実施していただいていることに感謝します。</p> <p>◎ 受講者アンケートによれば、講座への満足度が極めて高く、担当指導主事の不断の工夫と努力に敬意を表す。</p> <p>◎ 昨今の学校教育や学校現場の今日的な課題を意識され、外側からの声や願いを聞き入れた研修メニューの設定、コロナ禍に対応できる開催形態など、お忙しい中でのセンター事業の工夫改善に心より感謝申し上げます。</p> <p>◎ ウィズコロナの中でICTを用いたオンラインでの取り組みも一般化してきております。忙しい合間を縫っての研修ということ考えた時に、Web 上での事例共有やオンラインによる「すきま時間」を利用した研修は今後より重要度を増してくるも</p>   |

のと思われます。本会議の場で教育センター様による Web での情報共有等の話題をお聞きし、この点においても充実した取り組みをされていると感じました。

- ◎ 初任者研修や経験者研修において、県教育センターの担当者と適宜情報を共有し、連携を図って研修を実施することができた。
- ◎ 専門研修の受講者数及び昨年度との比較等を一覧で示していただいたことで、学校現場の先生方のニーズ等を把握することができて、大変参考になります。  
(例えば、ICT を活用した授業づくり研修の「初級」よりも「実践」の方が増えていることから、ICT 活用促進が図られていることや、危機対応講座などのマネジメントに関する研修のニーズが高まっていることなど。一方で、プログラミング教育実践講座の希望が昨年と比較して少ないようですが、県教育センターHP 掲載動画を活用して、校内研が実施されているのではないかとということも考えられます。)
- ◇ 教育公務員特例法改正が令和5年4月に施行され、各教員による研修履歴の記録と任命権者による受講奨励がスタートすることになっている。実際に教員に対する受講奨励の業務を担う校長としては、現時点で運用等に関する具体的な情報が全くなく不安を感じている。教育政策課、教職員課、教育センターが連携して準備作業を進めていることと思うが、早めの対応をお願いしたい。(秋田県ではすでにガイドラインを策定済みである。) また、昨年度のアンケートにも書かせていただいたが、県教育センターには、今後、より現場教員のニーズに合った研修機会の提供をいただくとともに、県教育センター以外が提供する研修に関する情報や、個々の教員が研修計画を立てる際のモデルケースを提示するなど、制度改正後も継続的に本県教員の資質向上が図れるよう、関係各課と連携しながら役割を果たしていただけるよう期待する。
- ◇ 今年度から『ことばの教室』指導者養成講座』を新設し、3回にわたり実施していただいたことに特別支援学校長会としてお礼申しあげます。継続事業としていただき、今後の指導者養成につながることを願っています。
- ◇ コロナ禍の中、基本研修について実施方法を検討していただいたことはありがたかったです。基本研修該当者は、参集型で実施でき同期と顔を合わせたことが何よりもありがたかったという声が聞こえています。研修形態のメリットデメリットがありますが、今後も感染状況等を踏まえながら工夫をお願いします。
- ◇ 中長期的な教育課題に類する研修メニュー(複式学級担当、ICT を活用した授業づくり、特別支援教育 etc) を設定していただき、学校現場での教育の充実に向けて非常にありがたいところです。今後も、現場課題に寄り添った教育の質の向上に向けたメニューづくりをお願いします。特に、出席者の前年比がマイナスになったとしても即閉講とするのではなく、この経営評価委員会や各校長会との意見交換などのもと、変更や削除の判断をお願いします。
- ◇ 教員の世代交代が急速に進み、教育界全体としての、また各学校の年齢構成が急激に変化している。そういった中で、蓄積されてきた教育技術の継承や教員の資質・能力向上は、喫緊の重要課題であると捉えている。そのためにも、県教育センターが積み上げてきた研修機能の更なる充実を図るとともに、働き方改革を進め職場環境の改善を促進するための研修しやすいシステム(オンライン化、オンデマンド化、HP 活用など)の更なる工夫改善をお願いします。
- ◇ 令和5年4月から施行される改正教育公務員特例法に基づく、研修記録の作成及びそれを活用した資質向上に関する指導助言に関し、当課が所管する「山形県教員『指標』改正に係る調整、貴センターにおける研修記録に係る「学びの履歴シート」作成など、御協力と御尽力をいただき、感謝申し上げます。令和5年度以降、文部科学省において研修受講履歴記録システム等が整備される予定とされており、本県における対応について、各事業の所管課を含め具体的な検討は今後行っていくこととなりますが、引き続き連携くださるようお願いいたします。
- ◇ コロナ禍3年目となる研修事業については、集合型、オンライン型、オンデマン

ド型それぞれの特徴を踏まえ、教員の研修機会の確保および研修内容の充実に努めていただいたことに、感謝申し上げます。特に高校では、ICT を活用した授業づくりや通常の学級における特別支援教育講座など、教育課題に関する講座の受講者が多い。今後も、受講者自身の課題解決と資質・能力の向上につながる研修講座の開設をお願いしたい。

また、教育センターWeb ページは、この1年間で非常に充実したつくりになっており、学校や先生方の指針や課題解決の手がかりになっていると考える。ただ、他の委員の意見にもあったとおり、内容更新についての周知不足があると考えられるため、高校教育課としても連携を図りながら周知に協力したい。

◇ 経験者研修対象者のリストアップについては、遺漏のないよう連携をお願いしたい。令和3年度から始まったステージアップ研修については、平成30年度中堅研受講済の研修者が令和5年度、受講最終年度になる。また、令和4年度から受講対象者が変更になった5年経験者研についても、確実な受講確認を行いたい。引き続きのお願いになるが、教職員課と県教育センターとの連携も十分に図っていただきたい。

◇ コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に関する、研修講座の開催を要望する。令和4年度現在、村山教育事務所管内の多くの自治体でコミュニティ・スクールを導入している。社会に開かれた教育課程の実現に向けて、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進は必要不可欠な内容であるので、より多くの先生方に地域をつくる人を育てる実践リーダーになっていただくためにも検討願いたい。

◇ 山形大学と連携しながら経験年数に応じて中堅、ベテラン教諭が若手教諭の指導・助言を行う場を提供できるような研修の場や研修全体構想（ロードマップ）を作成したい。（事務所研修も含めて）

■ 受講者アンケートから、集合型、オンライン型、オンライン型+集合型などコロナ禍においても多様な研修形態をとることで、受講者の満足度が高くなっている。今後の新型コロナウイルス感染症の状況をみながら、より充実した研修形態と研修機会の保障が課題となる。

■ コロナ禍での経験を生かして、集合型研修の良さ、オンライン型研修の良さ（オンデマンド研修等も取り入れながら）を研修内容に応じて精選し、実施していくことが教職員の資質向上につながると考える。

■ 次年度から実施される「学びの履歴シート」において、5年経験者研や中堅研を受けた年度や除算年数など、本人、管理職、教育委員会等が確認できるように分かりやすい様式・システムを構築しているとのことであるが、その活用について、オンデマンド配信する等、現場で取り組みやすい工夫もお願いしたい。若手教員の育成とメンタルヘルス面に関しては、今後も継続した対策が必要な課題と考える。研修講座内容の工夫や、一人で思い悩む教員の相談の機会を増やす、ハードルを下げるための工夫が必要だと考える。また、育成する側の教員や管理職も「若手育成」の研修を充実させる必要がある。

■ 初任者や2年次・3年次の研修は、集うこと自体がメンタルケアにもなるので、学校を離れての集う研修が望ましいと思う。

■ 昨年12月に、山形大学主催の「山形教員養成シンポジウム」に参加し、福井大学及び福井県の講演をお聞きした。「令和の日本型学校教育を担う教員の養成・採用・研修の在り方」（答申）にある「理論と実践の往還」を具現化するために、大学と教育委員会事務局と教育センターが密接に連携しており、そのための人事交流をなされているとのことだった。本県でも、山形大学地域教育文化学部や教職大学院との連携を更に密にし、教育リソースを引き出しながら、「理論と実践の往還」を目指してはいかがか。

■ コロナ禍ということもあり、研修者の欠席や日程変更等が多かった。失念等によ

|                     |   |
|---------------------|---|
|                     | <p>る欠席にならないように配慮する必要がある。</p> <p>■ 新規採用教員の大量採用が継続している中、その新採教員の育成も大きな課題となっている。大学院や大学でしっかりと学んできていると言うものの、理論と実践の乖離に本人自身も苦しんでいるケースもみられる。初任者研修において、生徒指導や学習指導、授業づくりなどの基本的内容も繰り返し確認していく必要(当然為されていると思いますが)があるのではと感じています。</p> <p>■ 全国の所々の県において、校長・教頭の管理職のなり手不足の問題が散見し始めているようだが、将来的に本県も同じような状況が出てくるのではと心配をしている。中堅教諭等資質向上研修も法定研修として実施され、そして各市町教委や学校現場においてもミドルリーダー育成に取り組んでいるが、更なる充実の必要があるのではと感じています。</p>   |
| <p>相談・支援<br/>事業</p> | <p><b>特別支援教育について</b></p> <p>◎ 「ことばの教室」指導者育成講座を新設していただきまして、ありがとうございました。今後も、小中学校における特別支援教育担当者の育成にご尽力くださいますようお願いいたします。</p> <p>◇ 言語通級指導に関する講座開設に感謝します。講師についても国特総研から招聘していただき、受講者の満足度は高いです。継続をお願いします。</p> <p>◇ 特別支援教育にかかわるICT活用授業報告が今後さらに充実して利活用されていくことを期待しています。そのためには、各特別支援学校はもちろん、支援の必要な子ども達にとって有効であった事例について、各校長会をとおして呼びかけて集約してはどうか。個別最適な学びのツールとして、指導者の引き出しが増えていくことを願っています。</p> <p>◇ 特別支援教育にかかわる研修の重なりを解消するために、本庁特支課、4教育事務所等と調整していただいていることに感謝申しあげます。特別支援教育に係る研修は、各学校種、役割等に応じて多様なものになっています。県として、今後も整理しながら、全ての教員が特別支援教育についての現職研修を受講できるような体系を期待します。</p> <p>◇ 「ことばの教室」指導者育成講座の開講がたいへんありがたい。現場からも好評であり、さらに充実してほしい。</p> <p>■ 文部科学省が12月に公表した調査で、通常学級に在籍する小・中学生の8.8%に発達障がいの可能性があると公表されました。子ども達はもちろん、現場も苦慮しているのではないかと思います。この調査結果を踏まえた施策、研修についても対象者、内容等を検討する時と考えます。時代のニーズに合わせて。</p> <p><b>教育相談について</b></p> <p>◎ 保護者の方からの相談に対しての丁寧なご対応に感謝申し上げます。保護者同士でつながりを持たず不安を抱え、相談先を迷った末に電話をするケースが多いと聞きました。これからも広報等を宜しくお願いいたします。</p> |

## 2 県教育センターへ期待することや要望

|                |  |
|----------------|--|
| <p>経営全般</p>    | <p>◇ 教育センターWeb ページについても、今後も先生方の授業づくりの指針となるよう、一層の充実をお願いしたい。</p>   |
| <p>研修事業</p>    | <p>◇ 「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な推進」についての講座充実を期待します。</p> <p>◇ コロナ対応が緩和されても、オンライン受講が可能となるようにしていただくと、遠方の学校の方や学校を空けられない学級担任はありがたいと思います。</p> <p>◇ これまで蓄積してきた「オンライン研修」の知見を生かしながら、働き方改革にも資する研修の在り方をさらに進めていただくようお願いいたします。</p> <p>◇ 事務職員の受講できる講座を今後も配慮ください。</p> <p>◇ 教員免許更新制が廃止となり、教職員の研修履歴の把握が必要となるが、なるべく本人や管理職の負担が少なくなるようなデジタルシステムを構築して欲しい。</p> <p>◇ 「働き方改革」により、自らの授業力を高める余裕は増えるものと思われる。自発的で教員の興味・特性に応じた来所サポートを利用する教員が、もっと増えるといいなと感じます。</p> <p>◇ すでに議論をさせていただいているところではございますが、教育委員会と大学が連携した形での教員研修について、新しいモデルを構築できればと考えております。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。</p> <p>◇ 教員の資質向上が図られるよう引き続き御尽力下さいますようお願いいたします。山形県の教育発展のために今後ともよろしくお願いいたします。</p> <p>◇ コロナ禍の中、初任者研修をはじめ、様々な研修の在り方等について、柔軟な対応と検討・改善を図っていただき、ありがとうございます。引き続き、先生方のために質の高い研修講座の提供・運営をお願いします。</p> <p>◇ 幼保小の円滑な接続及び幼児教育の質的向上に向けて、施設種・学校種・設置者種等を問わず一緒に参加・研修できる機会が必要であり、各教育事務所と連携して市町村を対象としたサポート等も検討していただきたいと思います。</p> <p>◇ 教科・領域に関する研修の充実はもとより、日々変化する現場の教育課題に関する研修や、「主体的・対話的で深い学び」「協働的な学び」につながる研修など幅広い研修の開設や、最新の情報提供をお願いしたい。</p> |
| <p>相談・支援事業</p> | <p><b>特別支援教育について</b></p> <p>◇ 「令和4年度 経営評価委員会」で出された意見・課題に対する現時点での改善策の中で、特別支援教育の中で、ICT の活用において、今後、どのようなことを検討しているか。とのご意見がありました。</p> <p>ご回答のとおり、「ICT の活用」について、県の方針は本庁特支課が中心となって検討しているところですが、今後、県教育センターと連携して、より一層、特別支援教育における ICT 活用を推進していきたいと思っておりますので、ご相談させていただければと存じます。</p> <p>◇ 通常学級における特別支援教育の必要感は常に高く、研修を受けたい教員は多いです。参加したい講座があっても、学校行事等の都合で受講できない場合があります。通常学級の特別支援教育の講座については、2回の設定にして、都合がよい日を選択できるようにしていただけるとありがたいです。</p> <p><b>教育相談について</b></p> <p>◇ コロナ禍が長引く中、教育相談業務については、児童生徒本人や保護者の重要な相談先となっているため、相談者の不安を解消できるよう、今後も相談体制の充実と相談支援技術の向上に努めていただきたいと思います。</p> <p>◇ 不登校・別室登校の数が、ここ数年で激増している。コロナの影響もあるとは思いますが、児童生徒の変化も実感している。センターの研究の成果に期待します。また、教育相談業務から見えてくる不登校の悩みを持つ最近の子供や親の傾向なども、伝えられる範囲で教えていただけると、学校での対応に生かせるものが分かり、あり</p>  |

|  |   |
|--|---|
|  | <p>がたい。</p> <p>◇ 教育相談の相談業務に関して、メールでの対応件数も一定程度ありますが、昨今のオンライン会議システムの普及等から、Zoom 等で相談したいというニーズも考えられます。相談者の多様なニーズに応じてオンラインで相談できるような体制も検討していただきたいと思います。</p> <p>(現在は、教育相談ダイヤルやメール相談、来所相談で悩みを抱えている子どもやその保護者に支援していただいています。相談者が SC との面談を希望された場合は、義務教育課につないでいただくことは可能でしょうか。義務教育課では、学校配置 SC と面談が行えるように、学校や市町村教育委員会と調整し、相談者と SC をつなげるようにしたいと考えています。)</p> |
|--|---|